

令和7年度全国学力・学習状況調査における 北九州市立黒崎中央小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知りたいとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

I. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）					
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等					
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等					

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問調査

児童質問調査	
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸侧面等に関する調査	

3. 教科に関する調査結果の概要

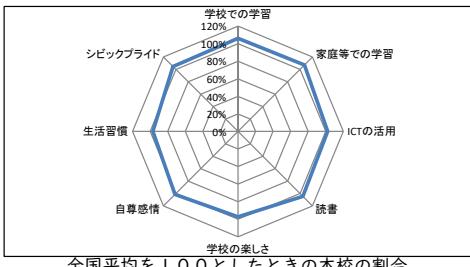
- (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

- (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全般的な傾向や特徴など	思考力・判断力・表現力等のうち、「A 話すこと・聞くこと」についてはよくできているが、「C 読むこと」に関する問題については課題が見られる。	全国平均正答率との比較	
	よくできた問題	目的や意図に応じて話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討する問題。目的に応じて、文章と図表などを結び付けて必要な情報を見付ける問題。	下回っている	
	努力が必要な問題	書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考える問題。目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく述べたりするなど、書き表し方を工夫する問題。		
算数	全般的な傾向や特徴など	「A 数と計算」の領域について、「知識・技能」を問う問題はよくできているが、「思考・判断・表現」を問う問題については課題が見られる。	全国平均正答率との比較	
	よくできた問題	目的や意図に応じて話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討する問題。目的に応じて、文章と図表などを結び付けて必要な情報を見付ける問題。	下回っている	
	努力が必要な問題	書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考える問題。目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく述べたりするなど、書き表し方を工夫する問題。	全国平均正答率との比較	
理科	全般的な傾向や特徴など	水や土の特徴（「地球」を柱とする療育）を問う問題はよくできているが、金属の性質（「粒子」を柱とする領域）や植物の発芽（「生命」を柱とする領域）を問う問題については課題が見られる。	全国平均正答率との比較	
	よくできた問題	電磁石の強さは巻き数によって変わることの知識が身に付いているかを確認する問題。水が氷に変わる温度を根拠に、オホーツク海の氷の面積が減少した理由を予想し、表現する問題。	下回っている	
	努力が必要な問題	身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかを確認する問題。レタスの種子の発芽の条件について、共通点や差異点を基に新たな問題を見つけ表現する問題。	全国平均正答率との比較	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析	
・「自分には、よいところがある。」「先生は、あなたのよいところを認めてくれる。」「人の役に立つ人になりたい。」の問い合わせに対して90%以上の児童が肯定的に回答しており、自尊感情が高い傾向が見られる。	
・「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方方に気付いたりすることがができると思う」「授業で学んだことを次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができると思う」という「授業や学校生活では、友達や周りの人と考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」の問い合わせに対して90%以上の児童が肯定的に回答しており、学校での学習に意欲的である様子が見られる。	
・学校以外の場での学習時間や授業時間以外でのICT活用の時間が、全国平均と比べ低い傾向が見られた。家庭学習にICTを活用する機会を増やすなどの工夫を試みたい。	

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- ① 教科に関する取組

- ・考え方の基となる基礎的な知識を身に付けるため、ドリル等の練習問題に取り組むほか、AIドリルの活用を工夫する。
- ・各教科で身に付けた知識や技能を用いて考えたことを言葉や文章で表現したり、友達と意見を交流したりする活動を設定することで、多面的、多角的に事象をとらえる力や考え方を深める力を育む。

- ② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・家庭学習の定着を図るために、学習状況に応じて宿題の内容等を工夫する。
- ・早寝、早起きの励行やスマホ等の適切な利用が実行できるよう保健指導等の充実を図るとともに、懇談会や各種通信の発行等により家庭との連携を一層進めいく。